

令和5年第2回千葉県立美術館アドバイザー会議

千葉県立美術館活性化基本構想(案)



令和5年8月23日(水)

千葉県立美術館活性化基本構想(案)



1. 現状分析

1-1. 構想策定の趣旨

1-2. 環境の変化

1-3. 現状と課題

2. 基本的な考え方

3. 基本的な考え方を踏まえた取組



開館当時の様子

1-1. 構想策定の趣旨

千葉県立美術館は、「みる・かたる・つくる」を基本方針にして、昭和49（1974）年10月に開館し、半世紀にわたり活動を積み重ねてきた。この間、京葉線・モノレールの開通によるアクセスの向上、ポートパーク・さんばし広場の整備、周辺マンションによるファミリー層の増加など、美術館周辺環境は著しく変化している。

国では、平成29（2017）年の文化芸術基本法の公布・施行、令和4（2022）年の博物館法一部改正などにより、文化芸術のより豊かな振興を図るよう法整備が行われた。千葉県では、令和4（2022）年4月、千葉県文化芸術推進基本計画を策定し、県民文化の新たな創造を図る方向性を提示しており、このような状況下で美術館に求められる役割はますます多様化している。

千葉県立美術館では、開館以来様々な活動の中で、千葉出身作家の作品の収集・研究、美術団体の利用やボランティア活動を充実させることができた一方、多様化した美術館の役割への対応や、開館当時の理念にある美術団体相互の交流や美術の大衆化の拠点としての役割、アトリエ開放による創造の拠点としての役割については十分に実現できていない。

これらの課題を背景に、千葉県生涯学習審議会による「県立博物館・美術館の今後の在り方について」の第三次答申（令和3年3月）を受け、県立美術館の更なる魅力向上と活性化を目指し、令和3（2021）年12月に外部有識者による千葉県立美術館アドバイザリー会議を立ち上げた。会議での議論をもとに、令和5（2023）年3月には活性化基本構想骨子（案）を策定し公表した。

骨子（案）に基づき、地域の文化活動の拠点として、美術館をとりまく様々な動向、多様化するライフスタイル、テクノロジーや環境などの社会変化に適応しながら、県民に寄り添った魅力ある美術館として生まれ変わるため、本構想を策定する。

1-2. 環境の変化

1. 社会環境の変化

- アートの概念の拡大
- グローバル化
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- デジタル化の進展
- 人口動態変化

2. 美術館を取り巻く環境の変化

- 近隣美術館の開館
- コレクションの充実
- 千葉みなと地域の整備・進展
- 屋外空間での展示や常磐線沿線の若手作家の増加といった県内のアートシーンの変化
- 成田空港の開港や京葉線の開通など県内交通網の整備

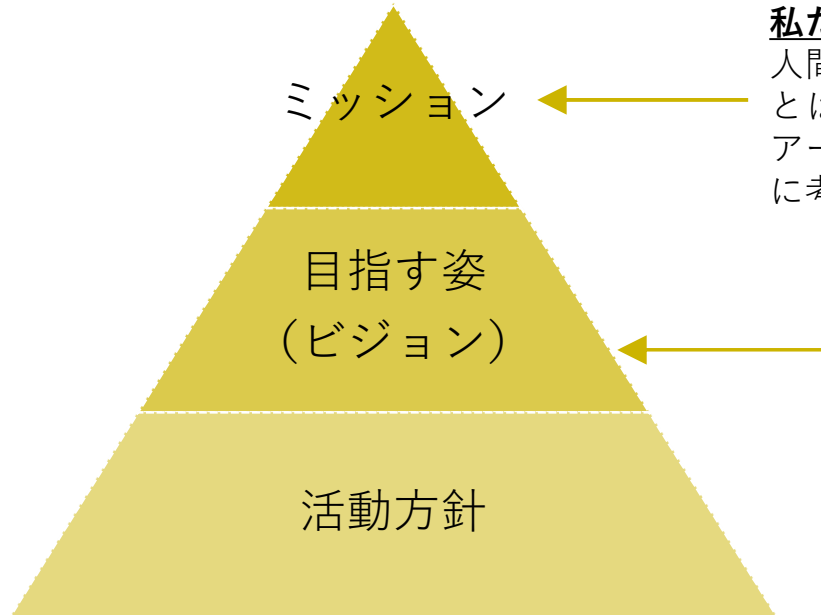
3. 博物館法の一部改正

- 博物館資料のデジタル・アーカイブ化
- 他の博物館及び他分野との連携
- 地域の活力の向上への取り組み

1-3. 現状と課題

	開館時に目指した姿（設置構想）	現状
みる	<p>○郷土における先人の偉大な作品に直接ふれる機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の生んだ優れた芸術家等の作品を中心に、美術館資料の収集活動を行い、展示活動を通じ芸術家の生いたち、作品の鑑賞により本県文化の振興の基盤とする S46 千葉県立美術館設置構想 	<p>【実現できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉出身作家の作品の収集・研究 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アートの概念拡大への対応 ②新たな県民ニーズへの対応
かたる	<p>○造形美術の鑑賞を通じた美術愛好の気風の醸成、県民芸術文化向上への寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術の普及センターとして講演会、研修会、映画会、談話会等を実施するとともに利用者の質問や相談にも応じ積極的に美術の普及と振興の拠点とする S52 県立美術館協議会答申 交流センターとして美術館友の会、美術団体、サークル等に活動の場の広場を提供し、相互の連絡と協力を促進し自主的交流を図るとともにボランティア活動と美術の大衆化の拠点とする S52 県立美術館協議会答申 	<p>【実現できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会関連の講座の充実 ・ 美術団体との協働や美術館ボランティアの活動の拡大 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ③幅広い対象に向けて学芸員が語り伝える役割 ④作品鑑賞の多様化への対応 ⑤「団体相互の交流や美術の大衆化の拠点」の実現
つくる	<p>○造形美術の創作を通じた美術愛好の気風の醸成、県民芸術文化向上への寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民のアトリエとして美術の実技教室や講座を開催し、自ら作る喜びと楽しさを味えるアトリエとし、また、団体やサークル等にも開放し、県民に親しまれる創造の拠点とする S52 県立美術館協議会答申 	<p>【実現できたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技講座の充実 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥幅広い参加者の取り込み ⑦実技講座やワークショップをアップデート ⑧「創造の拠点」の実現
美術館の役割の多様化	<p>新たに求められているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料のデジタル・アーカイブ化 地域の多様な主体や博物館同士の連携 地域の活力の向上への取り組み 	<p>現状</p> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑨デジタル化への対応 ⑩地域や近隣美術館との連携 ⑪地域の活力向上への取組

2. 基本的な考え方



私たちはアートとは何かを、ともに問い続けます

人間とともにアートが生まれました。アートとは何かを問うことは、人間とは何かを問うことと同じです。だから、人間の活動が変わるとともにアートも変化します。この最終的な答えのない問いを、みなさんとともに考え続けていきます。

人々が行き交い、対話し、新しい創造を生み出すプラットフォーム

アートをめぐって人々が行き交う美術館空間に、最新のアートや研究成果が発信されます。新たな価値観が生まれ、絶えず、県民の世界の見え方を変えていく存在、常に県民の生活を更新する原動力である存在となることを目指します。

1 新たな出会いと発見の場に

大切に受けつがれてきたアートと多様なアートを紹介することで、千葉発のアートシーンを創出し、新しい価値観の気づきの場になります

2 県内のアートプロジェクトの拠点として

県内アートプロジェクトの拠点として、県内各地域、学校、企業など多様な主体と連携・協働し、千葉文化を豊かにするとともに、社会の活力向上に寄与します

3 次世代の感性を育成

アートに触れる楽しさを伝えて、子どもたちの感性を育むとともに、アーティスト同士の交流空間を作り出し、その活動を支援することで、未来のクリエイティブな才能を美術館から育みます

4 サステイナブルな美術館に

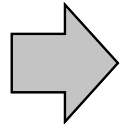
将来の要求を満たしつつ、人材の確保・育成に努め、県民に創造的な視点を提示し続ける、未来につながる美術館をめざします。

3. 基本的な考え方を踏まえた取組

新たな出会いと発見の場に

大切に受けつがれてきたアートと多様なアートを紹介することで、千葉発のアートシーンを創出し、新しい価値観の気づきの場になります

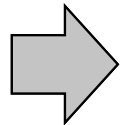
1-1



本県ならではのアートシーンを創出し、おどろきと感動が得られる場を創出します

- ・他機関との協働プロジェクトの実施 ⑩
- ・野外空間を活用したアートの創出 ①
- ・音楽・食文化・デザイン等とアートの融合 ①
- ・デジタル技術を活用したアートの創出 ①⑨

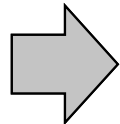
1-2



様々なニーズに合わせた体験を提供します

- ・展示備品の整備による良好な鑑賞空間の創出
- ・ニーズや世代に合わせたプログラムの実施 ②③
- ・多言語対応など様々な特性を持つ人々への対応 ④⑥

1-3



県ゆかりの作家・作品をはじめ、新しい分野についても、紹介、研究、コレクションの拡充を進め、その価値の向上に努めます

- ・房総の美術史に足跡を残した作家や房総を題材にした作品の紹介
- ・コレクション研究の深化とコレクション関連書籍の刊行
- ・積極的かつ体系的な美術品の収集活動
- ・コレクションの保全及び収蔵環境の整備
- ・県ゆかりの作家の活動支援

3. 基本的な考え方を踏まえた取組

県内のアートプロジェクトの拠点として

県内アートプロジェクトの拠点として、県内各地域、学校、企業など多様な主体と連携・協働し、千葉文化を豊かにするとともに、社会の活力向上に寄与します

2-1

県内アートをプロデュースし、
県内アートシーンの中心地とな
ります

- ・県内各地で実施されるアートプロジェクトとの連携、協働 ⑩⑪
- ・千葉みなと地域との連携 ⑩⑪
- ・美術館発信の県内横断プログラムの実施 ⑧⑪

2-2

唯一の県立美術館として、県内
各地域、学校、企業など多様な
主体と連携します

- ・他機関との協働プロジェクトの実施（再掲） ⑩
- ・県内地域との連携 ⑩
- ・企業、学校との連携 ⑩
- ・美術団体との連携 ⑩

2-3

デジタルを活用した活動を展開
するとともに、県内アートを
集約し発信します

- ・ウェブサイトのリニューアル及びSNSの活用 ⑨
- ・美術図書資料のオンラインでの活用 ⑨
- ・資料のデジタルアーカイブ化 ⑨
- ・デジタル技術を活用したアートの創出（再掲） ①⑨

3. 基本的な考え方を踏まえた取組

次世代の感性を育成

アートに触れる楽しさを伝えて、子どもたちの感性を育むとともに、アーティスト同士の交流空間を作り出し、その活動を支援することで、未来のクリエイティブな才能を美術館から育みます

3-1

アートに触れる楽しさを伝えて、子どもたちの感性を育みます

- ・創造性や共感を刺激する鑑賞、体験プログラムの実施 ②⑦
- ・学校教育との連携による美術教育プログラムの実施 ⑦⑩

3-2

様々な方策で若手アーティストを支援し、地域のアートを育てていきます

- ・滞在制作プログラムの継続的な実施 ⑧
- ・アーティスト連携や県民参画によるプログラムの実施 ⑤⑧
- ・県内アーティスト、美術団体への継続的な支援 ⑤⑧

3-3

アートについて様々な関心をもった人々が行き交う場を用意します

- ・若手作家同士の交流の機会の創出 ⑤⑧
- ・創作体験の機会の提供 ⑤⑦⑧
- ・コミュニティの場としてのアトリエ棟の活用 ⑤⑪

3. 基本的な考え方を踏まえた取組

サステイナブルな美術館に

将来の要求を満たしつつ、人材の確保・育成に努め、県民に創造的な視点を提示し続ける、未来につながる美術館をめざします。

4-1

多様性を認め合い、全ての人に開かれた拠りどころとなります

- ・バリアフリー化 ⑥
- ・保護者向け講座の実施 ⑥⑦
- ・サポーター活用によるアクセシビリティの向上 ⑥
- ・障害者芸術活動の支援、推進 ⑥
- ・外国人対応 ⑥

4-2

既存の建物の価値を再評価し、未来へ継承していく取組を進めます

- ・レストラン・カフェ、ミュージアムショップなど施設の充実
- ・資料の適正な保存のための施設整備
- ・建築を活かした魅力発信プログラムの実施

4-3

サステイナブルな美術館を実現する体制を整備します

- ・適正な職員の確保・育成や外部人材の活用
- ・業務の機能に応じたセクションの設置など効率的な業務体制の検討
- ・最新の知見や科学技術を取り組んだ展示や活動プログラムの実施